

公益社団法人 全国学校栄養士協議会会長賞

『給食の思い出』

広島県呉市立荘山田小学校 四年 男子 脇原 一稀

ごはんを作る人の気持ち。お皿を洗う人の気持ち。ぼくは、二年生の時のたんじんの先生に出会うまであまり考えたことはありませんでした。

ぼくは、一年生の時から給食の時間が大好きです。どのメニューもおいしいけど、特にくれっ子元氣カレーは何度もおかわりするほど大好物です。先生に大切なことを教わったのも、くれっ子元氣カレーの日でした。

ぼくが二年生の時。その日もおかわりをたくさんして、まん足して食器をかたづけしてると、

「脇原君、ごはんつぶがまだのこっているよ。ごはんつぶがのこっているとお皿を洗う人が大変だから全部きれいに食べようね。ごはんを作ってくれた人もきれいに食べてくれたらうれしいよ。」

と、村川先生に言われました。ぼくは、ごはんを作る人、お皿を洗う人の気持ちを考えたこともなかったのです。はっとしました。ぼくは、その日のばんごはんの時も先生の言葉を思い出して、ごはんつぶをのこさずきれいに食べました。すると、

「ごはんつぶが全然のこってないね。いつも注意してものこっているのに、どしたん。」と、お母さんに言われました。給食の時ことを話すと、

「いいことを教わったね。」

と、お父さんもお母さんも言っていました。お母さんは、

「きれいに食べてくれたらとっても気持ちがいいよ。」

と、言っていていつもより笑顔でお皿を洗っていました。ぼくは、その顔を見てうれしくなりました。

あれから二年、ぼくは四年生になった今も何でもきれいに食べています。四月から一年生になった妹にも、作ってくれた人の気持ちを考えて、のこさずきれいに食べようねと教えました。給食を通して、色いろな人の気持ちを考えて、思いやりの心を持つ事が大切だという事を学びました。先生ありがとう。